

7/26 第17回定例理事会開催

今回の理事会では、議決事項はありませんでした。

8/23 【平和学習会・夏休み特別企画】
憲法ってなあに?～親子で憲法カフェ～

明日の自由を守る若手弁護士の会
で活躍する太田啓子弁護士を招き、
親子で楽しく「憲法」を学ぶ学習会を
開催。

まずはパペットを使った紙芝居「檻
の中のライオン」を上演。ライオンを
「権力」に、檻を「憲法」に例え、「ライ
オンは檻の中へ!」(立憲主義)、「檻を
つくるのは私たち」(民主主義)、「ラ
イオンを選ぶのも私たち」(民主主義)
など、子どもにも理解できる内容に、
参加者は熱心に聞き入っていました。

ゲームしながら憲法の条文を学べ
る「憲法ビンゴ」では、9条「戦争の放
棄」や97条「基本的人権の本質」など
が参加者の関心の的。太田弁護士は
「今ある権利は長い歴史のなかで人々

が苦勞して勝ち得たもの。大切にす
ていかなくては」と語りました。



「憲法は国民を縛る法律だと誤解していた」
との参加者の感想に、「そういう方が多いで
す。活動を通じて誤解を解いていきたい」と
話す太田弁護士(国分寺労働会館にて)

8/28 「女性生産者と“楽しく”“元気に”話をしよう!!」
女性生産者交流会から

家事や育児などをこなしながら農作
業を支え、交流会などの表舞台に出
る機会の少ない女性生産者たち。今
回は少人数のグループに分かれ、産
地自慢の商品の試食・試飲をなが



おいしいお茶の淹れ方を披露するJAふくお
か八女生産者(新宿本部にて)

ら、日ごろの思いを語り合いました。
若い女性生産者が増えているという
産地がある一方、後継者難や人手不
足に悩む産地も。「援農」が趣味とい
う組合員からは、SNSを活用しては、な
どの提案もありました。

おいしい食べ方から、息子の婚活な
どのガールズトークもあり、充実した2
時間を過ごしました。

参加団体:JAふくおか八女(お茶)、米沢
郷牧場(米沢郷鶏)、ポーランドグループ
(日本のこめ豚)、野菜くらぶ(野菜各種)、
(株)パルミート(パルシステムの食肉専
門子会社)

自分たちの手で電気を作る
～発電産地の取り組み～

地域資源を活かして、再エネによる発電事業に取り組む、パル
システムでんきの産地を紹介します。

“やっかい者”の鶏ふんが電気変わった!
株式会社チキンカンパニー バイオマス発電所
(岩手県軽米町)



鶏ふんを燃やすことで生まれた熱
による水蒸気力で、タービン発
電機を回し、電気を生む仕組み

パルシステムの「までっこ
鶏」の産地、十文字チキンカ
ンパニーでは、2016年から、
鶏ふんによるバイオマス発電
事業をスタート。1日400トン
の鶏ふんを燃料に、年間約
3630万kWh(一般家庭でお
よそ1万世帯分)の電気を作り、
パルシステムでんきに供給して
います。「“やっかい者”だった鶏ふんを、
発電のための「資源」
として活用ができて、本当に助かっ
ています。燃やしたあとの灰も
肥料の原料になるので、余すところ
がないんですよ」と、所長の古
館裕樹さん。バイオマス
発電については、周辺の企業
からの関心も高く、多くの見
学者が訪れるほど。「安定供給
を最優先に、ここから再エネに
ついて情報発信をしていき
たいですね」(古館さん)



発電所の社員のみならず、もとも
とは「電気の人」でした

温泉地で地熱発電に挑戦!

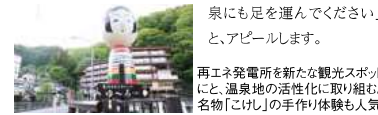
株式会社アップつちゆ (福島県福島市)

東日本大震災と、福
島第一原発事故による
被害で、観光客が激減
した福島県・土湯温泉。
まちの復興をめざして、
2012年に地元の温泉
協同組合とNPOが出
資して、「株式会社アップつちゆ」を
設立。温泉による地熱発電と、
溪流での小水力発電事業を始
めました。



湧き出した温泉水を使う「バイナリー方式」
の地熱発電。温泉が枯渇する恐れ
がないと注目される

「安全で、安心して使えるエネルギーを自分
たちの手で作りたい」と話すのは、社長の加藤
勝一さん。2017年12月から、パルシステム
でんきに供給を開始。「農作物の産直のよう
に、電気も、“顔の見える関係”になれたらう
れしい。ぜひ、土湯温泉にも足を運んでくだ
さい」と、アピールします。



再エネ発電所を新たな観光スポット
に。温泉地の活性化に取り組む。
名物「にじし」の手作り体験も人気

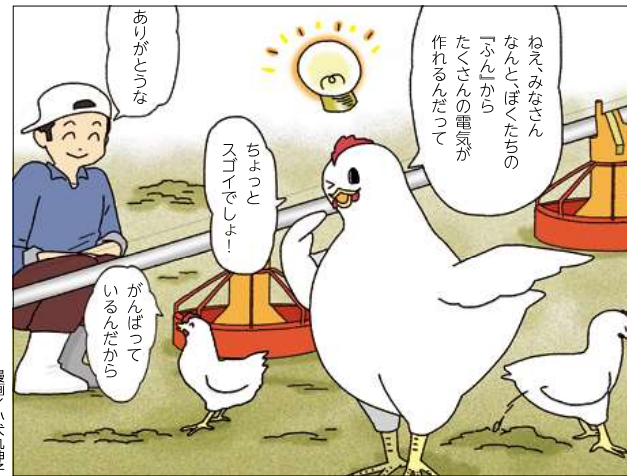
「再エネ」発電産地の挑戦を応援しよう!

<http://www.pal.or.jp/denki/>
パルシステムでんき 検索
0120-868-106
(受付時間: 月曜～土曜、9:00～17:00)

取材は2018年9月14日現在
参考サイト: 経済産業省・資源エネルギー庁
参考図書: 「ゼロから始める 暮らしに生かす再生可能エネルギー入門」(家の光協会)

再生可能エネルギーが
未来を変える?

- 自然が生み出すエネルギーだから、なくなる心配がない
- 「自分たちが電気を作る!」、その気概が地域を元気に
- 再エネによる電気を選んで持続可能な社会へ



漫画: 小沢九伸



今月のキーワード

再生可能
エネルギー

なぜ今、「再生可能エネルギー(以下再エネ)」が注目されているのでしょうか。
世界で広がる再エネ

再エネとは、太陽光、小水力、地熱、バイオマスなど、自然が生み出すエネルギーのこと。「使用しても、短期間に再生が可能で、なくならない」「発電時にCO₂をほとんど排出せず、地球温暖化防止に役立つ」「資源が国内に豊富にある」などの利点があり、化石燃料や原子力に代わる主要なエネルギーとして、世界で広まっています。
日本では、発電コストが高いなどの理由から、再エネの導入比率が低く、さらなる普及・拡大が課題とされています。
再エネで地域が元気に変わる

最近では、地域の資源を活かして、再エネ事業に取り組むコミュニティが増え、産業や雇用の創出、地域の活性化につながっています。パルシステムでも、農畜産物を育む自然の力を活かして、発電事業に挑戦する産地が増えています。電気を自らの手で作るやりがいや、新たな収入源につなげようという意気込みが、産地に活気をもたらしています。
再エネによる電気を選ぶことは、脱原発や持続可能な社会を実現し、未来を変えることにつながります。くらしに欠かせない電気について、関心をもつことから始めてみましょう。

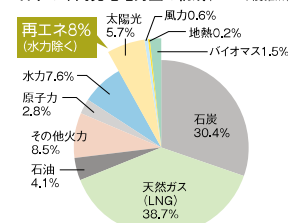
再エネのおもな種類



電気はなから作られる?

再生可能エネルギー
繰り返し使えて、枯渇しないのが特徴。エネルギー自給率向上にも貢献するが、発電コストがかかるのが課題。
原子力
一度に大規模な発電が可能で、温室効果ガスを排出しないが、使用済み核燃料の廃棄問題や、災害時に甚大な被害を及ぼすなど、問題が山積み。
石炭・天然ガス・石油(化石燃料)
ほとんどを海外からの輸入に頼り、いずれは枯渇するおそれがある。温室効果ガスを排出し、環境への負荷が大きい。

日本の年間発電電力量の構成(2017年度推計)



参考: 電力調査統計をもとに環境エネルギー政策研究所作成
(注) 四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。